

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-08-31

なし

(発行年 / Year)

1910

第三章 所有權

(理由) 本章ハ既成法典財産編第二章ニ當レリ然レトモ其規定ニ範圍ニ至リテハ二者大ニ相同シカラサルモノアリ左ニ之ヲ列叙セシ

一、本案ニ於テハ第一節ニ所有權ノ限界ナルモノヲ置キ所有權ハ如何ナル範圍内ニ於テ其權利ヲ行フコトヲ得ルカヲ明カニシ以テ暗ニ所有權ニ定義ヲ示セリ而シテ民法上ノ地役ト稱スルモノハ畢竟法律ヲ以テ或ル土地ノ所有權ヲ保護セシカ爲メ他ノ土地ノ所有權ノ範圍ヲ縮少スルニ過キサルモノナルカ故ニ之ヲ特別ノ物權トシテ視テ之ヲ法律ヲ以テ所有權ノ限界ヲ定メタルモノト視ルヲ妥當ナリト信シ本案ハ獨逸國ニシテテグロ塞ノ法律ニ倣ヒテ之ヲ本案ニ規定シタリ

二、既成法典財産編第四十二條ニハ所有權ハ本編及ヒ財産取得編ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依リ之ヲ取得シ保存シ及ヒ轉付ストノ旨ヲ揭ラルト雖モ本案ニ於テハ既ニ物權編總則中ニ物權取得ノ原則ヲ定メ(二七六、二七七、二七八)既成法典ノ如ク特別ノ取得方法ヲ規定スル財産取得編ナルモノヲ置カス物權ノ取得ニ關スル規程ハ之ヲ物權編中ニ掲テ其主トシテ人權ノ取得ニ關スルモノハ之ヲ債權編中ニ掲テ之ヲ以テ先占法附等ノ如キ所有權ノ取得ニ特別ナルモノハ之ヲ本章中ニ掲テ之ヲ以テ是レ特ニ第二節ヲ置キテ所有權ノ取得ト題シタル所以ナリ

三 既成法典財産編第四十二條ニハ所有權消滅ノ原因ヲ列舉セリ是ハ外國ニモ其例ナキニ非スト雖モ最多數ノ國ハ此列舉ノ主義ヲ採ラス今右條文ニ列舉セルモノヲ觀ルニ其第一號第二號及ヒ第三號ノ如キハ皆取得ノ件ヲ消滅ニシテ既ニ取得ノ事ヲ規定セハ復消滅ノ事ヲ規定スルノ要ナキモノナリ其第四號ニ掲ケタル場合ノ多クハ既往ニ遡リテ所有權ヲカリシト觀ルヘキモノナレカ故ニ之ヲ以テ所有權ヲ消滅トスルヲ得サルヘク其他ノ場合ハ必ズ取得ノ件ヲヘキ消滅ナルカ故ニ別ニ之ヲ規定スルヲ要アラサルベシ而シテ其第五號及ヒ第六號ハ當然言ヲテ疎ダサルナミナラス一切ノ權利ニ就キ同シキ所ナルヲ以テ特ニ之ヲ所有權ノ章ニ於テ明言スルヲ要セス以上ノ理由ニ依リ第四十二條ハ全然之ヲ削除セリ

四 木葉ハ時効ヲ以テ取得及ヒ消滅ノ方法ト認メタレトモ仍前二項ノ理由ニ因リ財産編第四十二條ノ如キ法文ヲ設ケルコトナレ 既成法典ハ時効ヲ證據ナリトスルノ主義ヲ採リナカラ 仍該條ノ如キ規程ヲ挿入セルハ實ニ自家擅著ノ甚シキモノト謂フヘシ

五 本章ニ共有一節ヲ置キテ既成法典財産編第二十七條乃至第三十九條及ヒ財産取得編第四百六條以下ノ規定ヲ細釋シ以テ共有ニ關スル一切ノ規定ヲ包括セシメタリ但財産編第四十條ノ規定ハ純然タル共有ノ問題ニ非サルヲ以テ之ヲ第一節中ニ挿入スルコトナス

六 財産編第二百六十五條ニハ所謂法律上ノ地役ナルモノニ關スル權規則ヲ國府縣ノ如キ公法人ノ所有スル財産ニモ適用スル旨及ヒ其例外ノ場合ヲモ掲ケタレトモ是レ或ハ言ヲ待タサルコト

第二節 所有權ノ限界

(理由) 本節中ニハ所有者ノ權利ヲ揚ケ兼テ所謂法律上ノ地役ナルモノヲ規定セリ其理由ハ既ニ章首ニ於テ之ヲ陳ヘタルヲ以テ復茲ニ贅セス

第二百六條

(理由) 本條ハ財産編第三十條ニ左ノ修正ヲ施コシタルモノナリ

一、定義ノ體裁ヲ捨テ規定ヲ質體ヨリシテ所有權ノ何タルヲ知ラシム

二、原文第二項ニハ所有權ハ法律又ハ合意又ハ遺言ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ制限スルコトヲ得ス トシ怡モ所有權ハ木葉無制限ノモノナルヲ法律又ハ合意等ヲ以テ特ニ之ヲ制限スルカ如キ意ヲ表セリ然レトモ元來權利ノ範圍ハ總テ法律ニ依リテ定マリ以テ法律ノ制限内ニ於テノニ在ラスルコトヲ得ルモノニシテ所有權ト雖モ亦此性質ノモノニ外ナラス唯所有權ハ各種ノ權利中最モ廣且大ナリトイフニ過キル耳故ニ本案ニ於テハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ云々ト曰ヒ以テ此義ヲ明カニセリ

三、原文ニハ法律トアリタルヲ法令ト改メタルハ往々總督命令ヲ知キモノヲ以テ所有權ノ任用ヲ制限スルノ必要アルヘキカ故ナリ或ハ單ニ法律ト曰フモ解釋ノ據リテ其中ニ法律命令ノ二者ヲ包含セシムルヲ得レトモ既ニ憲法ニ於テ法律ナル語ニ一定ノ意義ヲ附シタル以上ハ此二者ハ成ヘ

タ明カニ之ヲ區別スルコトヲ要ス草案ニハ初メ法律(三)トシテモセリレカ民法發布後ニ改廢シタルモノニハ法令(三)ニ依テ改正セシメテ改メオレリ

四 合意又ハ遺言ヲ省キタルハ他レ合意又ハ遺言ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ畢竟所有權者カ其所有物ヲ使用收益又ハ處分スルノ方法ニ過キサレハナリ

既成法典財產編第三十二條乃至第三十三條ノ規定ハ土地權ノ用法其他ニ由リテ自カガ明カナルヘキモノニシテ特ニ之ヲ民法ニ掲クルノ要ナリ且テ掲クルニキハ却テ他ニ不便ヲ醸スル虞アルヲ以テ此等ノ條文ハ總テ之ヲ削除セリ

同編第三十六條ノ規定ハ占有權及ヒ時效ニ關スル規定ニ因リテ自カラ明カナルカ故ニ亦之ヲ削除セリ

第二百七條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第三十四條ノ粗其意義ヲ同シラス唯原文ニハ適用ヲ掲ケ本條ニハ原則ヲ掲クルノ差アルノミ此修正ヲ施コレタル所以ハ他ナリ原則ヲ掲クルニ非サレハ必要ナル總テノ場合ヲ悉ク包含セシムルコト能ハサルカ故ナリ例ハ他人カ家中ニ工事ヲ施コスニ當リ其下ニアルト土地ノ所有者ハ之ヲ妨グ得ヘキト當然ナルニ原文ニハ此場合ヲ脫漏セルカ如キハ蓋シ共一例ナリ

第二百八條

同條第三項第四項及ヒ第三十五條ノ規定ハ敢テ明文ヲ要セザルヲ以テ之ヲ削除セリ

(理由) 本條ハ既成法典財產編第四十條ノ規定ニ大差ナシ唯各自一部分ノ所有スルトキハ之ヲ處分レ又之ニ關スル費用ヲ一人ニテ負擔スルハ當然ナルヲ以テ條文中ニ之ヲ明掲セザルコトトシ却テ共用部分ノ共有ニ屬スヘキコトヲ示シ共費用負擔ノ割合ヲ明アニ掲クルヲ必要ト信シ本條ノ如ク修正シタルナリ

第二百九條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百五條乃至第二百十七條ヲ併セテ一條トシ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列敘セシ

- 一 原文ニハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ノ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ニキ距離ニ於テ云々ト曰ヘルモ疆界又ハ其近傍ニ於テ築造又ハ修繕スル爲メ必要ナルトキト曰ハ、却テ簡明ナリト信シタルヲ以テ右ノ如ク之ヲ修正シタルナリ

- 二 原文第二百十六條第一項ノ規定ハ不用ノ規定ナリト信シタルヲ以テ之ヲ削除セリ蓋シ季節ノ如何ニ拘ハラス築造又ハ修繕ノ必要ヲ生スルコトアリ又隣地ノ所有者又ハ占有者ノ不在ニ場合ニ於テ其隣宅ヲ待テ種々事情ヲキテ保護セム是レ蓋シ同項ニ於テ但書ヲ加ヘタル所以ナリ本條ハ之ニ反對ノ精神ニアラザルモ苟モ既ニ必要ノ範圍内ニ於テ此權利アルモノトスル以上ノ所有者ハ其必要ナルニ他人ノ收權ヲ害スヘキ季節ニ於テ又ハ隣地ノ所有者若シハ占有者ノ一時不在ノ場合ニ於テ隣地ニ立入ルコトヲ得サルハ素ヨリ權利ヲ待テサレナリ又之ニ反シ若レ其必要アル

ニ於テハ季節ノ如何ヲ省ミ又ハ隣地ノ主人ノ隣宅ヲ侵スレテ隣地ニ立入ルコトヲ得ルモノ
トスベキコト亦勿論ナリ故ニ本條ノ如ク規定スルトキハ甚クシテ原文ノ意ヲ變ヒシテ而モ無
用ノ長文ヲ省クコトヲ得ルナリ

第二百十條

(理由) 本條ハ既成法典附章編第二百十八條ニ句ヲ修正ヲ加ヘタルノ殊ニ袋地ナル名稱ノ學
者ノ用語ニ委キ法文ニ用ルサルヲ可トシテ之ヲ除キタリ

第二百十一條

(理由) 本條ハ既成法典附章編第二百十九條ヲ改正シタルモノナリ原文ニハ袋地ノ利用又ハ其住居人
ハ需用ノ爲メ定期又ハ不期ニ車輛ヲ用ヰルコトヲ要スルトキハ道路ノ幅ハ其用ニ相應スルコトヲ要
スト曰ヒ又通行ノ必要又ハ其方法及ビ條件ニ付當事者ノ協議ハハルトキハ敷料所ハ成ルベク袋地ノ
需用及ビ通行ノ便利ニ承德地ノ損害ヲ斟酌スルコトヲ要ス。曰ヘリ詳細ノ適用ニ涉却テ大體ヲ
失スルノ嫌アルヲ以テ本案ハ之ヲ改メテ單ニ其原則ヲ示スコトナセリ

本條第二項ヲ設ケタルハ他ノ路ノ開設ハ一ノ特別ノ工事ニ屬シ土地ノ通行スルノ權アルハト
テ必クスレモ當然其上ニ工事ヲ施コスノ權アリト云ヒ難ク然レハトテ其必要アルニ若シ其上ニ道路
ヲ設クルコトヲ得サルトキハ往々通行權ノ行使シ得サルノ結果ヲ生スルキモ計ラセザルニ是レ特ニ
第二項ヲ設ケテ此必要ニ應ジタル所以ナリ

第二百十二條

(理由) 本條ハ既成法典附章編第二百十條第二項及ヒ第三項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘ之ヲ簡明ニシタル
ノミ

同編第二百二十一條及ヒ第二百十二條ハ之ヲ削除シタリ蓋シ袋地ナルカ故ニ通行權アルモノニレ
テ袋地タルコト止メハ通行權ノ自カラ消滅シ陸ア賃金ノ義務モ亦消滅スベキハ論ヲ俟ヌ。若シ又袋
地タルコト依然タルニ所有者カ通行權ヲ不用ナリトシテ之ヲ拋棄セルカ爲メニ其袋地ハ永久ニ他ニ
通セサルトキハ全ク天物ヲ暴露スルノ虞アルヲ以テ通行權ハ決シテ所有者ノ任意ニテ之ヲ消滅セシ
ムルコトヲ得サルモノトスベキナリ陸ア賃金ノ義務モ亦永久ニ之ヲ免カサルヲ得サルモノトナル或
ハ一時全ク通行セサルカ爲メニ隣地ニ直接ノ損害ヲ及ボササルコトアルヘシト雖モ右通行權ノ存
スルカ爲メニ隣地ノ價値ニ必ク多少ノ影響ヲ及ボスベキヲ以テ此場合ニ廢テモ亦之ニ相當スルノ
價金ヲ拂フベキコト勿論ナリ若シ此等ノ價金ニ付キ特ニ契約ヲ爲ストキハ單ニ債務者ノ一方ノ意志ヲ
以テ其價金ノ義務ヲ免カサルコト能ハサルハ言フヲ待タス

第二百十二條第一項ノ不必要ナルハ廢テ陳々ヲ要セス全ク契約自由ノ結果ニ過キサレハナリ又同
條第二項ノ規定ハ勸モスレハ締約者ノ意思ニ反スルコトアルベキヲ以テ寧ろ全條ヲ削除スルノ愈レ

ルニ加カス

第二百十三條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十三條ト其意義ノ同レウス同條ノ未文ヲ削リタル理由ハ既ニ前條ニ於テ之ヲ説明シタルヲ以テ復録スルニ非ス

第二百十四條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十四條ニ此少ク修正ヲ施シタルモノナリ左ニ其要點ヲ略セ
一、原文ニハ「低地ハ所有者ハ高地ニ、流下スルニ云々ト云ヘルモ土地ニ高低ナキ場合ト雖モ溢水ノ自然ニ流レ來ルコトヲ妨クヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ獨逸民法第一議會草案ニ倣ヒテ本文ノ如ク改メタリ

二、原文ニハ「雨水及ヒ泉水ト云ヘルモ池水ノ溢レ茶カ如キヲモ妨クヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ本案ハ外國法ノ多數ノ例ニ倣ヒテ單ニ水ト改メタリ

三、原文ニハ「雨水及ヒ泉水ヲ承クハ義務アリト云ヘルモ其意味タルヲ決シテ此水ヲ承ケルカ爲メニ特ニ工事ヲ施ス等ノ義務アリト云フニ非スシテ唯之ヲ承ケザラント欲シテ工事ヲ施スカ如キ事ヲ爲スヘカラスト云フニ過キルニ此意ヲ表ハスニハ本案ノ如ク「水ノ自然ニ流レ來ルコトヲ妨クタルコトヲ得」ト曰フヲ以テ妥當トス

四、原文第二項ヲ削除シタルハ他ナシ是レ純然シテ地役即チ既成法典ニ所謂「水」以テ「設定」シタル地役ニ關スル規定ナルヲ以テナリ

第二百十五條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十五條第二項ニ同レ唯其未文ヲ削除シタルハ他ナシ特ニ義務アリコトヲ言ハサレハ義務アリキコトハ言フヲ待タサレナリ

第二百十六條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十五條第一項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ
一、原文ニハ「低地ノ所有者ハ急害管轄權ヲ行フコトヲ得」レ云ヘルモ本案ニ於テハ之ヲ削リテ其理由他ナレ財産編第二百十一條ニ據レハ急害管轄權場合ニ於テハ豫防處分ヲ爲サシムル等ノ外ニ既ニ生レタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセルカ如シ然レモ本案ニ於テハ土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ流レ來ルコトヲ妨得サルモノトシ其結果トシテ水ノ自然ニ流レ來リタルカ爲メ損害ヲ生スルモ敢テ其賠償ヲ求ムルコトヲ得スシテ單ニ堤防等ノ修繕ヲ爲サシムルヲ得ルモノトセルカ故ニ既成法典ニ所謂急害管轄權トハ稍其精神ヲ異ニスルヲ以テナリ

二、原文ニハ「低地ノ所有者ハ高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ修繕ヲ爲スコトヲ得」ト云ヘルモ本案ニ於テハ隣地ノ所有者ヲシテ修繕ヲ爲サシムルヲ本則トシ若シ隣地ノ所有者ニシテ其義務ヲ盡サザルトキハ履行ノ方法トシテ債權者自ラ修繕ノ行爲ヲ爲シ債務者ヲシテ其費用ヲ償ハシムルコトヲ債權編ニ於テ規定スヘレ

三、本條第一項末文ハ伊國民法ニ依テ之ヲ加ヘタルナリ蓋シ甲地ニ堤防ナキ爲ニ類リニ乙地ニ水害ヲ及ボスコトアラハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ堤防ノ設ケレムルコトヲ得ルハ當然ノコトナレハナリ

第二百十七條

(理由) 前二條ニ於テ費用ノ負擔者ヲ定メタルトモ特別ノ慣習アルトモ例ヘハ甲乙兩地ノ所有者其實用ヲ分擔スル慣習アルトキハ其慣習ニ據ラシムルヲ便宜アリトスルカ故ニ特ニ茲ニ本條ヲ設ケテ其旨ヲ明カニセリ伊西等ノ諸國ハ法律ヲ以テ其費用ヲ分擔スヘキ旨ヲ規定スレドモ是レ決シテ據做スヘキニアラズ

第二百十八條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十六條ニ文字ノ修正ヲ加ヘタルヲミ

第二百十九條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十九條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列叙セシ

- 一、原文ニ「溝渠、水流、堀割又ハ池沼、沿岸者」ニシテ其地ト所有スル者ト云ヘルヲ本條ニ於テ「溝渠、其他ノ水流地」ノ所有者ト改メタルハ「溝渠」モ「堀割」モ皆水流ニシテ殊ニ渠、溝、濠、溝、瀆、字ニテ「堀割」ノ意義ヲ有スルカ故ニ之ヲ列記スルハ聊カ重複ノ嫌ナキニ非ス且「沿岸」ノ水路ヲ變スルト云フハ頗ル奇異ノ想ヲキニ非ス又「沿岸者」ニシテ「床地」ノミヲ所有スルモノ若シ其水流ヲモ併セテ所有スルニ非サレ

ハ本條ノ適用アルヘカラス是レ水流地ノ所有者ト改メタル所以ナリ

二、原文ニ「家用及ヒ農工業用」ニテ水ノ使用スルコトヲ得ル旨ヲ明記セリト雖モ水流地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ自由ニ使用スルコトヲ得ルハ固ヨリ明文ヲ待マサル所ナレバ以テ本條ニ於テハ右ノ句ヲ省キタリ

三、原文第三項ヲ削除シタルハ他ナシ既ニ既成法典ニ「沿岸者」トアルヲ改メテ「水流地」ノ所有者ト爲シタル以上ハ其所有者皆荷シ漁業法令ニ反セザル限リハ自己ノ所有地ニ魚ヲ隨意ニ捕漁シ得ルコト言フヲ待マサレハナリ

四、原文第四項ノ如キハ外國ニモ其例ヲ聞カス本條ニ於テ之ヲ削除シタルハ他ナレ自己ノ所有地ヲ防護セシカ爲メニ之ニ工事ヲ施スハ所有者ノ當然爲レ得ヘキ事項ニシテ假令之カ爲メニ對岸ノ所有者ニ損害ヲ齎スコトアルモ實ニ止ムヲ得ザル所ナレハナリ若シ從來ノ慣習又ハ明約ニ因リテ水除ヲ禁ザサルコトアラハ是レ其地ニ純然タル地役アルモノト視ルヘクシテ便宜シク地役ノ規定ニ從フヘキモノトス

五、本條第三項ヲ設ケタルハ此種ノ事項ニ關シテハ各地ニ種々ノ慣習アリ決シテ法律ヲ以テ之ヲ打破スルノ必要ヲ視サルヲ以テ法文ハ單ニ一般ノ原則ヲ示シ之ニ異ナル慣習アルトキハ其慣習

ニ據ラシムルヲ可ナリト信シレハナリ

同編第二百二十七條ニハ「泉源」ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ屬地ニ「流ルル」ハ「除水」ヲ「溝」

三十三條ノ削除シタル當然ノ結果ナリ

第二百二十二條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十八條ニ些少ノ修正ヲ施シタルニ過キズ其修正ハ一ニ本條第一
二百十九條ノ修正ノ結果ナリ

第二百二十三條

(理由) 一 本條ハ既成法典財産編第二百二十九條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルニ過キズ而シテ地方ノ慣
習ニ從ヒタル文字ヲ省キタル所以ハ他ノ別ニ條文ニ於テ其標示物ヲ限定セシメテ單ニ標示
スヘキ物ト曰ヘハ自ラ慣習ニ從ヒテ其物ヲ定ムヘキコト勿論ニシテ特ニ之ヲ言フコトヲ要セズト信
シテレハナリ原文ニハ標示物ヲ樹石乾杖ノ如キ物ニ限レリト雖モ是レ或ハ狹隘ニ失スルノ恐レアル
ヲ以テ本案ニハ此ノ如キ例擧ヲ爲サズ又原文ノ如ク互ニ強要スルコトヲ得ト曰ハシヨリハ寧ろ共同
ノ費用ヲ以テ標示ヲ標示スヘキ物ヲ設クルコトヲ得ト曰フヲ可トス權利ヲレハ強要スルコトヲ得ル
ハ勿論ニシテ何レノ面ヨリ之ヲ記載スルモ其意味ニ於テハ毫モ異ナル所ナカサルヘシト雖モ本案ノ規
定ノ從來ノ方針ニ倣ヒ單ニ權利ノ存在ヲ明カニスルヲ宜シト信シテレタルヲ以テナリ

二 既成法典財産編第二百四十條ハ之ヲ削除セリ蓋シ建物ノ全テ相接スル場合ニ於テハ其境界自ラ
界標ヲ成スカ故ニ別ニ界標ヲ設クルノ必要ナカサルヘク又之ヲ設クルコト能ハサルヲ常トス上其
垣欄モ亦既ニ界標ヲ成スカ故ニ他ニ工事ヲ施スノ要ナキハ言フヲ待タズ公路公溝ニテ隔テタ

ル土地ハ和隣地ニ非ズ故ニ本條ノ規定ヲ此場合ニ適用スヘカラサルハ亦疑フ容レザル所ナレハ
ナリ

三三 同編第二百四十一條第一項ニハ經界訴訟權ノ時効ニ羅フサルコトヲ言ヒ其第二項ニハ土地ノ所有
權又ハ占有ニ付キ争ヲ生シタルトキハ先テ其争ヲ決シタル後經界ヲ定ムヘキコトヲ言ヘリ既ニ
本條ノ權利ヲ以テ地役ニ非ストル以上第一項ノ規定ニ當然言フヲ得タル所ナリ(獨二章
八三七) 第二項ノ規定中取得時効ニ關スルコトハ事物當然ノ理ニ據リ當然ヘキモノニシテ別
ニ明文ヲ要セス所有權確定セザレハ其經界ヲ定ムルヲ得サルハ當然ノコトナレハナリ同項ニハ
占有ニ付キ争アルトキハ先テ回復又ハ回取ノ訴ヲ爲スコトヲ要ストルモ若シ所有權ニテ既
ニ明カナリトセハ其經界ヲ定ムルカ爲メニ先テ占有ノ争ヲ決スルノ必要ナカサルヘシ故ニ右ノ條
文ハ全テ之ヲ削除セリ

四 同編第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ニハ所有權ノ争及ヒ其證據ニ關スル規定ヲ設ケタリ是
レ歐洲ニ於テハ沿革上經界訴訟權ニ作アヘキモノトセリト雖モ其性質ヲ原スレハ兩者全ク別異ノ
モノニシテ所有權ノ争及ヒ其證據モ他ノ權利ノ争及ヒ其證據ト同レタ全ク民事訴訟法又ハ其附
屬法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ殊ニ界限ノ證書ヲ作ラシムルカ如キハ頗ル干渉ニ失スルノ嫌ア
ルヲ以テ本案ニ於テハ右ノ二條ハ之ヲ全廢セリ

第二百二十四條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ其修正ハ蓋シ前條條ヲ修正改削シタル當然ノ結果ニ過キス

一、原文ニ保存ノ費用ヲ言ハサリレハ既成法典ハ樹石標札ノ如ク殆ク保存ノ費用ヲ要セザル物ミヨ以テ界標ト爲スノ精神ナレハナリ然ルニ本案ニ於テハ標示物ノ制限ヲ設ケサルモノヨリ往々障礙文ハ溝渠ヲ以テ界標ト爲スコトアルニキヲ以テ保存ノ費用ニ關スル法律ノ規定ヲ必要ト信シテ之ヲ加ヘタリ

二、訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔スヘキコトハ訴訟法ノ通則ニシテ民訴七ニ特ニ茲ニ言フコトヲ要セズト信シテ削除セリ

界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ分擔スヘキモノナレトモ若シ相隣者一人ノ過失ニ因リテ此界標ヲ毀壞シタルトキハ其過失者ノミニ之ヲ修繕又ハ改置ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス是レ不正ノ損害ノ原則ヲ適用シタルモノニシテ本條ハ決シテ此原則ニ變例ヲ設ケルモノニアラス

第二百二十五條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十六條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルモノニ
同編第二百四十五條ハ之ヲ削除セリ蓋シ所有者者其所有地内ニ圍障ヲ設ケ得ルコト并ニ之カ爲ニ他
人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ザルハ當然ナルヲ以テナリ

第二百二十六條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十七條第一項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルモノニ
同編第二百四十八條ヲ削除シタルハ他ナレ既ニ本案第二百二十五條ニ於テ當事者ノ協議整ハサルトキハ云キト曰ヘルヲ以テ新ニ圍障ヲ設置スルニハ先づ協議ヲ爲スヘキコト論ヲ跋ス協議ヲ爲スハ是レ相隣者ヲ連帶ニ付スル一方法ナリ又修繕ヲ爲スニハ必レモ協議ヲ要セス獨斷ニテ之ヲ爲相隣者ヲシテ其費用ヲ分擔セシメテ可ナルモノニシテ外國ニ於テハ先づ協議ヲ要スルノ例アルヲ聞カサルナリ終版ノ草案ニハ連帶ニ附セスレテ設置ノ費用ヲ分擔セシムルコトヲ得ルコトヲ明言シ修繕ノ費用ハ之ヲ分擔セシムルコトヲ得ヘレトノ旨ヲ其註釋ニ於テ明言セリ前版ニハ此ノ如ク明言ナケレトモ起草者ノ意ハ蓋シ終始同一ナルカ如シ

第二百二十七條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十七條第二項ニ一ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ原文ニハ保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ良好ナル材料ヲ用非又ハ高サヲ増レル者ノ負擔ニ歸スヘキモノトセルコト今之ヲ改メ其被格ノ圍障ヲ設ケルニ因リテ生スル費用ノ増額ノミヲ負擔スヘキモノトセリ是レ公平ヲ主トスルノ精神ニ出タルナリ

第二百二十八條

(理由) 前二條ニ於テ土地ノ所有者ニ圍障ヲ設ケルノ權アルコト圍障ノ種類及ヒ其設置保存ノ費用等ニ關テ規定シタルモ是レ唯他ニ何等ノ慣習モナキ場合ニ適用スヘキ一般ノ原則ヲ示セルニ過キサ

ルナリ此類ノ事多クハ各地方ノ慣習ニ依テ定マリ法律ヲ以テ取リニ之ヲ變更セサルヲ可トス本條ハ法律ノ規定ニ先テ慣習ヲ適用セラルヘキ旨ヲ殊更ニ明揚スルモノナリ

第二百二十九條

(理由) 本條ハ既成法典並舊編第二百四十九條及ヒ第二百五十條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ施コシタルモノナリ

一、第二百四十九條ニハ界標ノ事ヲ曰ハス第三百五十條ニハ圍墻ニ圍墻及ヒ圍墻ニ就テノ規定セリト雖モ本條ニ於テハ界標・圍墻・塹壕及ヒ溝渠ニモ汎ク本條ノ規定ヲ適用スルコトトセリ草案ニハ本條ト同シク最モ汎ク規定シタリニ確定法文ニ於テ改メテ之ヲ狹隘ニシタルノ頗ル解シ難キコトナリ

二、原文ニハ反證ヲ許ス場合ヲ制限セルモ本條ハ汎ク之ヲ許スノ主義ヲ採リ其結果トシテ第二百五十條ノ但書ヲ改メテ本條ノ如クセリ

三、同編第二百五十二條ニハ所謂非互有ノ推定ナルモノヲ設ケ外國ニモ其例ニ乏レカラスト雖モ此レ本條ニ於テ採用シタル自由探證ノ主義ニ反スル所ナルヲ以テ同條ハ之ヲ削除セリ

四、同編第二百五十三條ハ同第二百五十一條ヲ削除シタルノ結果トシテ當然削除スヘキモノトナル殊ニ既成法典ニハ憲モ互有ノ目標ニ關スルテ規定ナキヲ以テ結ニ至リテ突然原文ノ如ク條文ヲ設クルトキハ其意義難ク解シ難キモノナリ外國ニモ未ダ原文ノ如キ規定アルヲ聞カズ只伊國

民法第五百四十七條第三項ニ非互有ノ目標雙方ニ在ルキハ共有ト看做スト言ヘルモノニ

五、同編第二百五十四條及ヒ第二百五十五條第一項・第二項・第四項及ヒ第五項ヲ削除シタルハ他ナレ此等ノ規定ハ或ハ共有物ノ修繕ノ費用ヲ分擔スルコトニ關シ或ハ之ヲ使用スル權利ノ範圍

ニ關シテ共有ヨリ生ズル當然ノ結果ヲ列舉セルニ過キザレハナリ本條ニ於テハ共有ノ事ハ他ノ節ニ於テ之ヲ規定スヘク而シテ其詳細ニ至リテハ之ヲ慣習ニ一任スルコトトス

第二百三十條

(理由) 本條ハ既成法典附錄編第二百五十條ニ殆ト文字ヲ修正ノミヲ施シタルモノナリ其第二項ニ但書ヲ加ヘタルハ防火竈數ハ其性質上變力ノ建物ヨリ高キニ非ザレハ其共用ヲ爲ス難キヲ以テナ

第二百三十一條

(理由) 本條ハ既成法典附錄編第二百五十五條第二項ニ文字ヲ修正ヲ施シタルモノニ

第二百三十二條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニナカリレフ今伊・西民法・自民法草案等ニ做シテ之ヲ設ケタルナリ此等ノ事タル蓋シテコトヲ特ダサルカ如シト雖モ既ニ前條ニ於テ相關者ノ一人カ牆壁ノ高サヲ増スル權利ヲ有スルコトヲ認ムル以上ハ或ハ其權利ノ行使ニ因リテ生ズル損害ニ對シテハ價金ヲ拂フコトヲ要セスト曰フコトヲ得ヘキヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタルヲ可トシタルナリ

第二百三十三條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百六十二條第四項ニ文字修正ヲ加ヘタルノミ他ノ諸項ノ規定ハ專ラ慣習ニ依ルヘキコトヲ本條ニハ之ヲ掲ケス

第二百三十四條

(理由) 既成法典ハ諸外國ノ例ニ倣ヒ財産編第二百五十七條ニ於テ建物ニ付キ要界線ヨリ一定ノ距離ヲ存スヘキ慣習アルトキハ其慣習ニ從フヘキコトヲ規定レ之ヲ慣習ニ一任シ去レリ是レ蓋シ此種ノ慣習ハ至レ所屬タニシテ到底法文ヲ以テ一定シ難シト思惟セルニ因ルモノナルヘレト雖モ時トシテハ或ハ何等ノ慣習モ存セザル地方アリ或ハ其慣習ノ頗ル判然セルモノモアリ此ノ如キ場合ニ應スルノ法文ヲキトキハ實際上ノ不便甚ク夥シトセズ現ニ既成法典ニ於テモ財産編第二百五十八條乃至第二百六十條ニハ窓及ヒ樞側ニ付キ一定ノ距離ヲ存スヘキコトヲ規定レタルニアラスヤ然レモ獨リ建物ニ關レテノモ一定ノ標準ヲ與ヘサルハ決シテ其當ヲ得ズモノニアラス是レ本條第一項ヲ設ケル所以ナリ

財産編第二百五十七條第二項ニハ單一ニ種ノ損害ヲミテ僅見シテ其價金ヲ要求セルコトヲ規定セルモ本條ニ於テハ一切ノ損害ニ付キ之ヲ規定セリ蓋シ不正ノ損害ヲ受ケタル者ハ其損害ノ如何ナルモノタルヲ問ハス之ニ對シテ賠償ヲ要求セルコト當然ナレハナリ又建築著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シタル後モ亦損害賠償ヲ請求シヨリ爲スコトヲ得ルモノトシタルハ第二百一十條同一ノ精神ニ出テ

タルモノナリ

第二百三十五條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百五十八條乃至第二百六十條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其重ナル點ヲ示サン

一、財産編第二百五十八條ニハ窓又樞側ヲ設ケテ他人ノ所有地ニ直線ニ眺望セルコトヲ得ズトシ其所有地ノ宅地タルト又ハ畑地若クハ水田タルト區別セルカ如クナレモ同編第二百六十條ノ規定ニ據レハ其適用ニ宅地ニ限レルコト明カナルヲ以テ窓ノ初メノ宅地ト稱スルノ優レルニ若カスト信シ本條ニ於テハ之ヲ修正シテ他人ノ宅地ヲ眺望スヘキ云々トセリ而シテ竹ヲモ宅地タルニ於テハ其上ヲ建築物ニ屬孔ヲ存スルト否トハ之ノ間ハス總テ本條ノ規定ヲ適用スヘキコトトス是レ相關者アレテ成ヘテ善隣ノ誼ヲ保シメント欲シタレハナリ

二、既成法典ニハ明取窓ト他ノ窓トヲ區別シ明取窓ニハ一定ノ條件ヲ具備セルニ於テハ目隠ヲ要セサルコトトセリ然レトモ既成法典ニ規定セルカ如キ條件ヲ明取窓ニ要スルモノトスルトキハ大ニ明取ノ實ヲ失ヒ殆シト其用ヲ爲ササル場合多ク生ズキカ故ニ本條ハ此ノ如キ區別ヲ設ケス單ニ共物ノ他人ノ宅地ヲ眺望スヘキモノナルヤ否ヤヲ區別シ若シ之ヲ眺望スヘキモノタルニ於テハ總テ目隠ヲ附スルコトヲ必要トシタリ

第二百三十六條

(理由) 既ニ說明シタル如ク建物ノ築造觀望及ヒ明取窓ニ關スル規定ハ只一定ノ慣習ナキ場合ニ應スルノ規定ニシテ決シテ之ヲ以テ慣習ヲ打破スルノ精神ニアラス以下二條ノ規定ト共ニ別異ニス

第二百三十七條

(理由) 本條ハ既成法典附產編第二百六十二條第一項乃至第三項ニ在テ修正ヲ加ヘタリ

- 一、地窖ハ適當乾燥ナリ覆蓋ナキモ水溜ニ比シレハ危險少キヲ以テ總テ其距離ヲ二尺トセリ
- 二、厠坑ハ從來疆界線ニ接シテ之ヲ穿テコト多シ俄カニ改メテ其距離ヲ六尺トスルハ著シク慣習ニ悖リ人民ニ非常ノ不便ヲ來スノ虞アルヲ以テ之ヲ三尺トセリ而シテ肥料溜ニ至リテハ用水溜及ヒ下水溜ト等シテ其距離ヲ六尺トスヘキモノト信シテ之ヲ厠坑ト區別シタリ
- 三、原文ニハ石樋ニ付テノニ規定セリト雖モ水樋陶樋等ハ却テ一層危險ニシテ又損害ヲ生スルノ虞多キヲ以テ單ニ水樋ト曰ヒ以テ其材料ヲ區別セサルコトトセリ

第二百三十八條

(理由) 本條ハ既成法典附產編第二百六十二條第一項但書及ヒ第四項ヲ以テ一條ト爲シタルナリ蓋シ規定ノ範圍ヲ汎クシテ一切ノ場合ニ適合スヘキモノト爲スヲ必要トシケレハナリ

同編第二百六十三條ヲ削除シタルハ此等ノ工事ニ付テノ規定ハ大ニ公益ニ關スルカ故ニ強制的ノ執行スヘキモノニシテ決シテ慣習ニ一任スヘキモノニアラザレナリ

同編第二百六十四條ハ無用ノ規定ナルヲ以テ之ヲ削除セリ

第二章 所有權ノ取得

(理由) 既成法典ニハ附產取得編ナル一編ヲ設ケ其中ニ物權及ヒ債權ノ取得ニ共通ナル規定アリ又所有權若クハ債權ノ取得ニ關スル規定アリト雖モ本案ニ於テハ附產取得ニ關シテ特ニ一編ヲ設ケサルヲ以テ此點ニ付テハ自ラ既成法典ト其體裁ヲ異ニセサルコトヲ得ス即チ物權取得ノ通則ハ本編第一章ニ於テ之ヲ規定シ或物權ノ取得ニ特別ナル規定ハ本編第二章以下ニ於テ之ヲ掲ケタリ而シテ債權ノ取得ニ關スル規定ハ之ヲ第三編中ニ掲ケルコトトセリ

本節ハ即チ此方針ニ基キ所有權取得ノ方法ヲ規定シタルモノナリ尤モ所有權取得ノ場合ハ本節ノ外ニ其規定ナキニ非スト雖モ他ノ條項中ニ於テ規定シタルトテ差違トスヘキモノハ之ヲ省キ此ニ自ラ特種ノ性質ヲ有スルモノノミヲ規定セリ

既成法典ニ於テハ本節中ニ掲ケル所有權ヲ取得ノ方法ニ特別ノ名稱ヲ附シ各々章ヲ分チテ之ニ干スル規定ヲ掲ケタリト雖モ本案ニ於テハ其必要ヲ認メサルヲ以テ總テ之ヲ削レリ蓋其餘數多カラサルト遺失物及ヒ埋藏物ニ干スル細則ハ行政上ノ便宜ヲ計リ之ヲ特別法ニ讓フシコトヲ欲シタレハナリ

在ニ既成法典中ニ於テ削除シタル條文及ヒ其削除ノ理由ヲ說明スヘシ

財產取得編第二條第一項ノ規定ハ狩獵捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム可キコトヲ示シタルヲテテレハ敢テ之ヲ明文ニ記載スルノ必要ナカレバ又其第二項ノ如キ